

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870500638
法人名	特定非営利活動法人 ワーカーズ・コレクティブ ひと
事業所名	グループホーム 夕日館
所在地	愛媛県新居浜市萩生 2 7 2 0 - 1
自己評価作成日	平成21年12月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

民家を改修し、宅老所からスタートし介護保険開始時よりグループホームになりました。女性6名で敬いいたわりながら暮らしています。本当の家族のように悲しいことには涙し、喜びは分かち合い、ときにはいさかきもあります。住み慣れたところで馴染みの人に囲まれて最期までのんびり気ままに暮らすお手伝いができればなあと考えています。利用者様やご家族・ワーカーが何でも話し合え、お互いに感謝の気持ちで接することができるように実践していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は自治会に加入し、地域の一斉清掃や自治会館の清掃に職員が参加されている。利用者は、よく近所を散歩されており、違うコースを歩いていた時には、近所の方から連絡をいただくような事もある。利用者と一緒に近所に回覧板を回したり、小学生が通学時等に手を振ってくれることに、利用者は喜ばれている。
居間の窓からは、訪問者や道を歩いている人の様子が眺められる。日当たりが良い所に電気じゅうたんが敷かれており、「ぬくいよ」と利用者が集い、おしゃべりをされていた。敷居等の段差は、利用者のリハビリになっているようだ。日中は、居間で過される利用者が多く、テレビやビデオ、カセットデッキで音楽を聞く等されている。昼食後、お隣に座っている方の肩をもんであげている利用者の姿も見られた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 夕日館

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

高橋 光子

評価完了日

21年 12月 21日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 誰にでも訪れる老いや障害を自分の事として受け止め、助け合って生活していける地域社会を作るための『住民参加型福祉』を目指す法人の理念に添い、事業所の理念も全職員で作っている。『のんびり、気ままに過ごしましょう。～住み慣れたところで最期まで～』理念は事業所に貼り出している。</p> <p>(外部評価) 職員が覚えやすいような理念を事業所の全職員で話し合い決めておられ、台所に掲示されたり、業務日誌のページ毎に示されている。日々、業務日誌を開ける度に理念が目に入るようになっており、職員同士で確認し合っておられる。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 自治会に加入している。清掃活動・祭りの寄付など協力している。日常的交流は草引きの手伝いに来てくださったり、季節の野菜を頂いたりする。また、登下校の小学生が窓越しに手を振ってくれる。夏休みには中高生がワークキャンプで訪れる。老人会へは参加したいが、個人で自治会に加入しなおかつ老人会費も必要との事で断念している。</p> <p>(外部評価) 事業所は自治会に加入し、地域の一斉清掃や自治会館の清掃に職員が参加されている。利用者は、よく近所を散歩されており、違うコースを歩いていた時には、近所の方から連絡をいただくような事もある。利用者と一緒に近所に回覧板を回したり、小学生が通学時等に手を振ってくれることに、利用者は喜ばれている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 夕日館便り・てくてくねっと(法人紙)などに相談窓口の案内をしている。24時間相談対応可能。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 開催の時間帯や曜日を工夫し、参加人数の増加を目指している。内容は日ごろの様子のお知らせ・取り組み・評価事業の結果の報告や参加のみなさまのご意見ご要望をお聞きする。議事録を残し、事業所の運営会議などで話し合う。</p> <p>(外部評価) ご家族や系列の訪問介護ステーションの方、地域のボランティアの方の参加があり、2ヶ月毎に会議を開催されている。毎月の職員が集まる「チーム会」で職員全員で運営推進会議のテーマを決めて、順番に参加されている。会議に参加して下さっている方からの紹介で地域の方2名の委員が増え「いつでもお手伝いに来ますよ」と言っている。利用者顔なじみの地域の方が会議に参加して下さっており、利用者は来訪を楽しみにされている。</p>	<p>管理者は、自治会長や民生委員の方、消防署や地域の消防団の方等、地域の色々な立場の方に参加いただき、事業所のことをさらに知っていただきたいと考えておられた。今後も、地域の方とのネットワークをさらに広げるような取り組みを続け、会議の充実を図り、事業所のさらなるサービスの質向上につなげていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営に関する相談や待機者数の報告など、介護福祉課事業所指導係りとは連絡が密に取れている。福祉課とも連携し生活保護の方の受け入れもしている。包括からは運営推進会議に参加して下さったり、介護相談員が訪問している。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センターの担当者の方が運営推進会議時、「成年後見制度」について説明して下さったり、市の介護施設の待機者情報を知らせて下さっている。市社協が行う「ワークキャンプ」の受け入れをされており、中学生・高校生数名が2泊3日で食事作りを一緒にされたり、利用者の方に接する等、介護体験をされた。利用者は、学生たちとの交流をたいへん喜ばれた。介護相談員が2ヶ月に1回訪問してくれており、利用者の生活について気付いたことを伝えて下さっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 研修に参加したり、勉強会をして身体拘束をしないケアに全員で取り組んでいる。どのような時どのようなレベルで身体拘束に当たるのか、共有している。また、深夜の時間帯以外施錠することは無い。</p> <p>(外部評価) 玄関には鍵をかけず、居間から玄関入り口への引き戸には鈴が掛けてあり、人の出入りがわかるようになっていた。職員は、県グループホーム協議会主催の研修等に順番で参加して、身体拘束等についても学んでおられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の内容を全員で共通理解できるように研修や勉強会に取り組んでいる。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修の参加や勉強会はしているが、まだ、制度を利用する人はいない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が契約書・重要事項説明書・運営規定・情報提供票などの内容に沿って説明する。他の職員も内容を理解できている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族からの意見や不満・苦情（直接やご意見箱など）を職員間で共有し、改善に取り組む。経過等は運営推進会議でお知らせする。また、介護相談員の訪問で利用者は相談に乗ってもらえている。後日報告して下さる。 (外部評価) ご家族からは事業所に対して「家庭的な雰囲気がいい」と感想をいただいている。ご家族からは災害対策等について「防災グッズの設置場所」について提案をいただいたり、お正月の準備時には「南天」をいただき、お料理の飾り等にも使われた。	 管理者は、利用者やご家族からもっと要望を引き出してサービスに反映していきたいと考えておられた。たとえば、事業所の職員体制や設備等についてのご意見や要望、アイデア等、具体的に要望等を引き出せるような工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営会議と定例会に参加し意見を述べる事が出来る。話し合った結果は、記録にとってある。	
			(外部評価) 利用者の重度化のこともあり、食材の買い出しや日中の過ごし方等の支援について、話し合い検討を重ねているところであった。事業所から法人の理事を選出して、理事会で事業所運営について提案できるようになっており、話し合っ決めてられるようになっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ワーカーズコレクティブはすべてのメンバーが労働者であり経営者であるという雇われない働き方なので、就業環境の整備はメンバーが決定している。給与水準や個々の努力・実績など査定することは困難であるが、各自できることに励み、働きやすい(年齢にとらわれず)勉強しやすい環境が整っている。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間研修計画を作成し、実施している。研修参加は機会均等を図り働き方に関わらず、公平にできている。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム管理者親睦会・ケアマネ協議会主催研修会・相互研修など参加し、日ごろから相談などできるような関係ができつつある。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 居宅のケアマネより情報を収集したうえで、見学日にゆっくりお話を伺えるように努めている。見学日にはリラックスする為、これまでのなじみの方(ケアマネやデイのワーカーなど)に同行していただくことが多い。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	(自己評価)	<p>入居申込時に必ず見学していただき、入居が決まればご家族にアセスメントシートの記入をお願いしている。</p>
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	(自己評価)	<p>入居相談を受けたときは緊急の場合、他のグループホームや施設の紹介・居宅支援事業所への引継ぎを行っている。入居が決まれば、本人のできること・分かることを確かめ本人家族の希望にそい、支援できることを相談していく。</p>
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>年を重ねた人から教わることも多く、職員の知識も広がってくる。お互いに感謝や尊敬の気持ちをもって接することができるように努めている。一緒に楽しんだり笑ったり過ごすことができている。</p>
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>今までの介護の苦労や達成感を共有できるように情報交換を行い、これからも一緒に支えて行けるように努めている。また、これまで困難な関係であったとしても先入観を持たずに支援できるよう努めている。家族が訪れやすい雰囲気作りに努め、これからも必ず1ヶ月に1回は訪問し入金していただくシステムは続けて行きたい。</p>
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	(自己評価)	<p>本人の生活暦を把握し、なじみの人が訪問しやすい雰囲気作りや入居前に利用していた介護サービスを利用することもある。市内でも遠い所から入居された方は困難な場合がある。</p>
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 相性や身体状況を考慮し、居間の座席など工夫している。良好な関係のときはもちろん、不穏な雰囲気になりそうなどときにはかかわり方で、回避できるように努めている。居間で過ごす時間を大切にできる限り、居間で過ごせるように声掛けを行っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 看取りのときは通夜や告別式にも参列し、家族の気持ちに配慮しながら身の回りの物品の片付けなども手伝っている。入院で退所される時は情報提供を行いその後もお見舞いなどに行く。病状がおちついたら再入所の相談を受けることもある。在宅を選ばれるときは居宅に引継ぎをしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) お話を良く聴き、話し言葉で記録し職員間で情報の共有を行っている。意思表示が困難な場合、職員本位にならないように職員間で意見交換しながら家族の意向も取り入れ検討している。 (外部評価) ご本人の「お好きな過ごし方」等も把握して、お天気の良い日には、ひなたぼっこをされたり、庭の散策を楽しまれている。利用者の言葉は、そのまま業務日誌に記録して、職員間で利用者個々の思いや意向等を共有されている。ご自分で洗濯をされる方は、居室や外に干す等、ご自分で決めてされている。言葉を発することがむづかしいような方には、筆談でコミュニケーションをとっておられた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人にお聞きしたり、家族へ情報提供をお願いしている。入居前の介護サービス等へも情報提供をお願いする。多方面から生活歴などを把握し記録し職員間で情報を共有している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別記録を充実し、毎日の一人ひとりの生活のリズムを把握できるように努めている。また、有する力量にあったできることを知る為、定期的にアセスメントをしている。個別のできることを活かせる機会を増やしたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>本人・家族・職員・医療関係者などに意見を求め作成している。また、ケアカンファレンスで定期的にケア目標を見直している。(期間は一人ひとりに合わせている)</p>	
			(外部評価)	
			<p>利用者ごとの担当職員がご本人ご家族、医療関係者の意見を聞いてケアプランを立案し、ケアマネジャーが介護計画を作成されている。又、毎月の「チーム会」では職員全員で話し合い、3か月ごとに見直しをされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>一人ひとりの1日の暮らし方に添った記録表を作成し、ケア目標に添ってケアが実施できているかどうか記録する。個別の担当が、経過を報告しケア目標の見直しを行っている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>利用者や家族の希望に沿い、通院や外出(散髪やデイサービス)の支援をすることもある。点滴の見守りなどのニーズがあっても介護保険でできないサービスは、ボランティア・有償ボランティア・家族の支援などでできることもある。すべてのニーズに応えることは難しい。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>利用者や家族の希望に沿い、通院や外出(散髪やデイサービス)の支援をすることもある。点滴の見守りなどのニーズがあっても介護保険でできないサービスは、ボランティア・有償ボランティア・家族の支援などでできることもある。すべてのニーズに応えることは難しい。</p>	
			(外部評価)	
			<p>地域の学校の文化祭やフリーマーケット・民家の菊祭りや美容院などへ認知症があって歩行が難しい方も出かけることが出来ている。パンの訪問販売やダスキンの演劇のお誘いなどもある。が、十分には参加できていない。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>地域の学校の文化祭やフリーマーケット・民家の菊祭りや美容院などへ認知症があって歩行が難しい方も出かけることが出来ている。パンの訪問販売やダスキンの演劇のお誘いなどもある。が、十分には参加できていない。</p>	
			(外部評価)	
			<p>地域の学校の文化祭やフリーマーケット・民家の菊祭りや美容院などへ認知症があって歩行が難しい方も出かけることが出来ている。パンの訪問販売やダスキンの演劇のお誘いなどもある。が、十分には参加できていない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			受診・往診・病院の紹介・訪問看護への指示などかかりつけ医には24時間連絡可能で安心できる体制が整っている。かかりつけ医は利用者や家族の希望に沿っている。	
			(外部評価)	
			協力医が月に3・4回往診に来てくれている。訪問看護ステーションが24時間対応してくれ、利用者の毎日の健康状態をファックスで報告されている。必要時には質問されたり、毎週訪問してもらっている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			24時間相談可能な訪問看護ステーションと契約している。毎日の健康状態を報告している。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			入院中は病状の把握ができるように見舞ったり家族へ問合せを行っている。病状が安定すれば、家族や利用者と話し合い、退院に向け医師と相談している。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			本人・家族へ運営推進会議や家族会などで説明は繰り返し行っている。看護と介護の違いなども説明し、医療職不在の夕日館でできることも説明している。重度化しないと考えがまとまらない家族は多いが、これまでにいった看取りの経過は報告している。	
			(外部評価)	
			これまで数名の利用者の看取りを支援された経験がある。管理者は、ご本人やご家族にとって「一番良い方法」を何度も話し合っ、最終的に「これでよかった」と思っていただけのような支援に取り組みたいと話しておられた。運営推進会議時に、看とり時の体験談をご家族に話していただいたこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故へのマニュアルをケアカンファレンス時確認している。救命救急訓練に参加はしているが実践に不安のある職員もいる。事故・ヒヤリハット報告を徹底し事故防止にも努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に緊急連絡の訓練や避難経路の確認など行っている。また、災害時、一時避難先として近所をお願いしている。防災グッズは定期的に点検している。	
			(外部評価) 夜間に職員の緊急連絡網を回し、通報訓練をされた。防火カーテンと誘導灯を設置されていた。隣の大家さんの駐車場を避難場所にさせていただいており、大家さんからは、避難時の協力を申し出てもらっている。	今月は、消防署の協力を得てご家族とともに、消火訓練や避難訓練を実施する予定になっている。又、今年度中に緊急通報装置を設置する予定にもなっている。災害時のいろいろな場面を想定した訓練を重ね、利用者、職員の安心安全に向けた取り組みをすすめていかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉掛けや対応は家族のように親しくしているが、馴れ合いにならないように気をつけている。個人情報保護方針を定め、方針に添い実施している。	
			(外部評価) 職員は、利用者の目線でお話することを心がけておられる。オムツ交換を行う際には、居室の戸を閉めて行っておられ、ご本人にお聞きしながら介助をされている。又、ご本人が触れてほしくないような話題等、不快な気持ちになるような会話には、気を付けるようにされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 良く話を聴き状況を見極め希望に沿えるよう支援している。着替えの支援のときに洋服を選んだり、食べたり飲んだりするものを選んでいたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 共同生活の一定の大きな流れを大切にしながら、できる限り希望に応えるよう努めている。が、人員配置が手薄になる時間帯は困難なこともある。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪は家族と職員と出かけたり訪問してもらったり職員が短くしたり一人ひとりのできる方法で支援している。服を選んだり、肌を整えたりその時々で支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を考え、下ごしらえ・台拭き・配膳、下膳・食器洗いを一緒にできることがある。一人ひとりの力量を見極め協働する。一緒に食事をしている。	
			(外部評価) 献立は当日利用者の希望を聞いて決めておられ、冷蔵庫にある食材で考えたり、利用者と一緒に買い物に行かれたりされている。えびやジャガイモの皮むき、もやしの根取り等は、利用者と一緒にされている。調査訪問時、下膳される利用者も見られた。持病のあった方が、旬の食材を使った食事や散歩等の運動で状態が改善したような事例もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量は記録できている。普通食が困難な利用者には必要に応じ介護食にし、口から食べる援助を続けている。嚥下の研修に参加し安全な食べ方に努めている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとり援助の方法は異なる。ほぼ自立の方は朝夕の声掛けや夜間の義歯洗浄、全介助の方は毎食後等それぞれの援助方法が変わる。ADLの変化でできることできないこととお見極めながら行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人記録で排泄パターンを把握している。オムツ利用の方は、心身の状態や時間帯などでオムツ類の工夫をしている。	
			(外部評価) トイレに遠いお部屋の方は、夜間、ポータブルを利用されているが、処理はご自分でされる。車椅子を利用することになり、トイレに近い部屋の方と相談して、最近お部屋を替わってもらった方もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便のパターンを調べ食事や水分で工夫している。医師の指示の元便秘薬も適切に服薬支援している。また、腹圧がかかり排便しやすい姿勢での排泄介助ができています。毎日ラジオ体操を行っている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回が基本であるが、季節・個人の体調・希望にあわせ入浴している。認知症が深くなり入浴が楽しめなくなっている利用者への対応を検討し続けている。	
			(外部評価) 月・水・金曜日は入浴日と決めて支援されており、ゆずやバラの香りの入浴剤等も使用され、利用者は「ええ香りじゃね」と喜ばれているようである。入浴の時間、職員と一緒に歌を唄ったり、おしゃべりしながらお風呂を楽しまれる方もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調や前日の睡眠時間により休んだり眠れたりできるように支援している。危険の無い限り居間でとうとされることも良いと考えている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬状況を職員は把握できている。また、服薬による変化は記録し医療機関へ連絡できている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 買い物やドライブ・外食やデイの参加・庭仕事や音楽・散歩など能力や好みに応じて声掛けし援助している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日頃は散歩や買い物に行く機会が多いが、個人差はある。また、盆踊りやバザー・祭り見物など家族の支援で出かけることもある。墓参りや外食も家族に希望を伝える家族との外出が実現することもある。	
			(外部評価) 職員とお菓子を買いに行かれる方もある。系列のデイサービスが近くにあり、イベントに参加したり、紅葉見物や初詣に出掛けておられる。初詣に行った神社では「昔はここでぎんなんをたくさん拾ったんよ」と懐かしい話をしてくださる方もあった。熱帯魚のえさを買いに行かれ、世話をされている方もある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) キーパーソンと相談の上、希望・能力に合わせて支援する。現在の利用者は、困難なことが多い。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は自室でゆっくり話す事が出来るように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節を感じられる部屋飾りを心がけている。室温や湿度には特に注意を払っている。	
			(外部評価) 居間の窓からは、訪問者や道を歩いている人の様子が眺められる。日当たりが良い所に電気じゅうたんが敷かれており、「ぬくいよ」と利用者が集い、おしゃべりをされていた。敷居等の段差は、利用者のリハビリになっているようだ。日中は、居間で過される利用者が多く、テレビやビデオ、カセットデッキで音楽を聞く等されている。昼食後、お隣に座っている方の肩をもんであげている利用者の姿も見られた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間での座り方は工夫している。玄関先・台所などくつろげるように工夫している。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人・家族と相談の上家具を調えたり、寝具を整えている。家族や日ごろの写真を飾ることもある。	
			(外部評価) それぞれの居室には温湿度計が置かれ、利用者の状態によっては湿度の調節に特に気を付けておられる方もあった。馴染みの家具や仲良しの利用者のお出かけの写真を飾っておられる方や、ご家族からの旅行のお土産の「こけし」や壁飾り、お札等を飾っている方もあった。状態によって居室で横になり過ごす時間の多い方は、居間の様子が見える位置にベッドを置いて、さみしくないように配慮をされていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりやスロープで移動を安全にできるように、トイレや洗面所の場所が分かるようにプレートを置いている。掃除機・洗濯機・簾・雑巾・台所などオープンでよく見えるようにしている。	